

金	沢	医	科	大	学	病	院	
地	域	医	療	連	携	だ	よ	り

No.5 2013-10 発行

5月に開設しました【胸痛ホットライン】について、治療を担当している心血管カテーテル治療科の土谷 武嗣准教授により『カテーテル治療への熱い思い』と題して、雑誌（Cardio Vascular Contemporary Vol.2 No.2 2013/7/20 発行）に掲載されましたので、地域医療連携だよりとして改めて、掲載内容の一部をご紹介します。



■カテーテル治療医としての覚悟■

研修医1年目に培うことができたカテーテル治療医としての覚悟を礎に、その後、10数施設の基幹病院で臨床経験を積んだ。その過程で、自分の技量を磨くためには客観的な反省が必要なことを知った。自分の力量を自分で客観的に見極められることはもちろん不可欠であり、それに加えて上司や部下、コメディカルスタッフや患者さまからの意見に誠実に耳を傾けられるかどうかは、大事な資質のひとつである。中でも、部下やコメディカルスタッフからの意見は重要で、ときとしてアクロバティックな手技に傾倒しがちなインターベンションナリストとしての性を抑制してくれる力となり、また逆に、部下やコメディカルスタッフが意見を持ちえないチームは健全な発展をとげていないと考える。

研究会や学会での発表は、自分の医療への正当な審判を受けるいい舞台である。発表を目的に自施設の治療データをまとめるという行為は、治療戦略の功罪や自分の得手不得手を明らかにする一番の手立てであり、自施設のデータを明らかにしない施設が信頼を得られることはない。自分が熟考の末に施行した手技で勝ちえた成功と福音を、同じ気概を持った多くの人に共有してほしいという欲求は健全で、他施設のいい同胞を見つける好機にもつながるので、若い先生方には国内外を問わずより多くの場で発表の機会を持ってほしいと願う。

■心血管カテーテル治療科の設立■

2011年の秋、金沢医科大学病院の心血管カテーテル治療科設立の期に、縁あって、北山道彦教授のチームに参画することとなった。健全なチームの発展には臨床、研究、教育の三本柱が重要であることは周知であるが、その礎に必要なものは、ゆるぎないリーダーシップと誠実なコミュニケーションであるように感じている。北山教授はカテーテル治療における戦略に確固たる信念をお持ちで、決してぶれることがない。その強いリーダーシップを背に、若い先生方とコミュニケーションをとりながら、1症例ごとに臨床の喜びや反省を共有し、かつ研究発表という同じ目標を持って1日1日を邁進するよう努めている。実際、若い先生方の診療能力や技術の向上、なによりモチベーションの高揚は如実となり、北山教授とともにそれを肌で感じるときはまさに priceless の喜びとなっている。

■カテーテル治療への熱い思い■

カテーテルを通じた医療への思いは、最初は上司のようなカテーテルの達人になりたいとの素朴な向上心に始まり、やがては困難な症例に立ち向かう勇氣となり、勝ちえた成果をできるだけ多くの人と共有したいとの野心につながり、ついには後人の育成や強いチーム作りへの責務となった。

どの過程においても、自分の原動力になったのは奮い立つ心であって、老若男女を問わず、またカテーテル治療に限らず、医療に従事する人々すべてがこの気概を持って邁進してほしいと思う。

心血管カテーテル治療科 土谷 武嗣

(問い合わせ先)

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学一丁目一番地

TEL 076-218-8219 FAX 0120-076-286

金沢医科大学病院

地域医療連携事務課

regional@kanazawa-med.ac.jp

Kanazawa Medical University Hospital